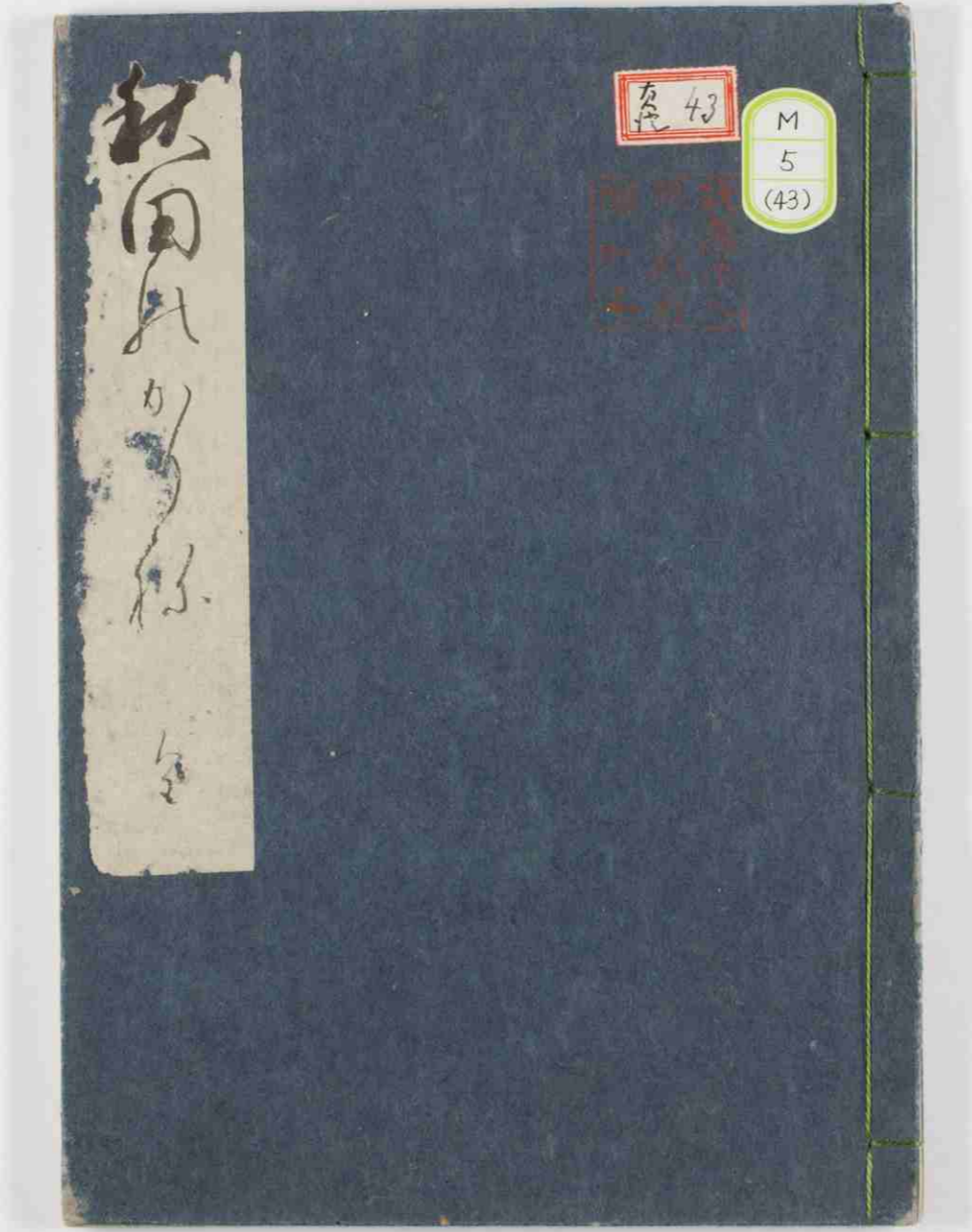


以下 汚れあり



紅國此の終
全

巻 43

M
5
(43)

紅國此の終

秋田のかりね 金

○あまのかりね

といふ秋田河原郡（不詳）の保正宮禊
 某のそとに海にや九郎義経朝臣假（不詳）と世をきて
 宮のま道に給ひしも指あつしとていふは合珠世も
 知りぬ氣々用を念珠（不詳）と世をきてとていふは
 望をとりしとていふは世よりこそとていふは
 あつしとていふは世よりこそとていふは
 けまりの山岸遠くをゆくはつらつら沖のまはれを
 らひしにふし辨財天女の祖（不詳）ありとていふは
 波の上のまはれありとていふは
 岸のまはれのまはれありとていふは



〇三三

唯のミと花より一七不前ありあてふとて一雁の二つり口
 此の敷も秋也。 竹屋よ志づらき人ものぬやまの
 里の石なる思ふよりしそ事室の家ハ棟ごふふ秋秋と云
 まの七上りたるあつた瀆風の吹くを料とつそのま酒神の白を
 片換ふことありきもまを元とてまのあつたをくつりつりてまの
 せと流を揃へてあつらふらそつらまの屍はよう腹のやう掃さる
 ららいつりすも元あれぬまの秋山小流まのまのあつたを
 まののこたせづりし片貝とてまの流をまのまのまのまの
 上枝とてまのまのまの

めはしる世も思してまのまのまのまのまのまのまのまの
 大谷水澤とてまの栢屋と里小事の良瑞とてまの雲水まのまの

常林寺常林寺 常林寺の海に成のまのまのまのまのまのまの
 麻のむらとて月のあるまのまのまのまのまのまのまのまの
 う常原の山とてまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 林蔵の里ふすし人まのまのまのまのまのまのまのまのまの
 向中神ありむらとてまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 十七日まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 在ふまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 山とてまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

常林寺のまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 十八日まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

常林寺

